

徳原 満男 氏の学位審査結果の要旨

主査：谷川 昇

副査：西山 利正、北田 容章

術後再建腸管を有する症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた ERCP (DB-ERCP) の合併症に関する包括的な研究は未だなされていない。申請者は 2006 年 2 月から 2018 年 12 月まで関西医科大学消化器内科で施行された術後再建腸管を有する症例に対して行った DB-ERCP1576 件を後ろ向きに検討し発生した合併症について統計学的な検討を加えて評価した。結果は合併症発生率が 5.8%で、その内訳は穿孔 3.2%、粘膜裂傷 0.5%、出血 1.0%、膵炎 0.6%、呼吸障害 0.4%、その他 0.2%であり、通常の ERCP の合併症とは異なる傾向を示した、再建法別ではBillroth-II gastrectomy (B-II) が 11.6%と最多であった。多変量解析による合併症寄与因子は B-II と naïve 乳頭の 2 因子であった。本研究は DB-ERCP の合併症の種類及びその発生頻度を明らかにするとともに多変量解析により合併症発生に寄与する因子が B-II 再建後、ナイーブ乳頭であることを見出した。このことは DB-ERCP 等の内視鏡検査に新たな知見を加えるものであり博士 (医学) の学位に値するものと判断した。